

## ▼活動の目的

平成16年の初夏から秋にかけて相次ぎ大雨が降り、安倍川本流では白濁現象がアユつりシーズンをとおして発生した。本活動はNPO会員、静岡大学と東海大学学生、地元住民が協力して、安倍川で発生する濁りの原因を調べ、多様な生物が棲める清流維持のために必要な基礎的資料を得ることを目的とする。



【安倍川での資料採取】

【水質検査】

## ▼活動の内容

安倍川の濁り発生原因となる可能性が高い西日影沢と蓬沢を重点的に現地調査した。調査は、崩壊現場やその下流域での流出土砂の性質と濁り発生の関係を調べた。また、増水や濁りによって生息数が変化し、アユのエサとなる珪藻類の生息状況と水質調査もあわせて行った。昨年度の調査結果と本年度の活動で得られた結果を合わせて11月20日の第3回流木クリーンまつりでパネル展示し、参加者に説明した。1月30日の静岡大学フィールド科学実地演習発表会で水質と珪藻類の生息状況を報告した。



## ▼活動の効果

自然とのふれあい体験が無いまま大学に入学する学生が多いが、農業や林業の基本となる自然、特に水資源に関連する理解を高める上で極めて有効であった。上流部では崩落や侵食が続く地質学的には活動的な安倍川と、その濁りの実態を流木クリーンまつりでの展示を通じて一般参加者に伝えることが出来た。調査活動の結果、安倍川本流で生じる白濁現象は、大雨で風化した頁岩を含む斜面が崩壊し、本流を流れ下る過程でもその成分が溶出して生じるものと推定できた。

## ▼苦勞した点・反省点

平成17年は一転して少雨で異常渇水となり、昨年発生した安倍川本流における長期にわたる濁り現象は発生せず、当初計画した濁りの経時的な変化がとらえることができなかった。また、例年より1ヶ月も早く、安倍奥は相当量の降雪があり、12月上旬以降は低温が続き路面や沢が凍結し、源流部の調査が困難になった。日照りと渇水のため珪藻類（水あか）も腐った状態が続き、増水や濁りとの関係を明らかに出来なかった。